

用ニルモ妨ナシ

第四章 駁者馬丁就業制限

- 第二十條 駁者又ハ馬丁ハ副票及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求ムルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ
- 第二十一條 駁者ハ馬車ヲ離ルヘカラス若シ避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ監守ヲ爲サシムヘシ
- 第二十二條 他人ヲシテ馬車ヲ駁セシムヘカラス
- 第二十三條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懸篤ニ保護ヲナスヘシ
- 第二十四條 乗客若席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス
- 第二十五條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ肯ンセサルトキハ降車セシムヘシ
- 第二十六條 行車中客室ニ入り又ハ飲食喫煙スヘカラス
- 第二十七條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス
- 第二十八條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 第二十九條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若クハ競走セシムヘカラス
- 第三十條 馬車ノ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ
  - 一 車馬及ヒ歩行者ニ行途フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ
  - 二 貨車ニ對シテハ空車ニ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
  - 三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ

後車ニ右ニ通過スヘシ

- 四 郵便用消防用ニ供スル車馬及澆水車又ハ葬送等ニ行途フトキハ避讓スヘシ
  - 第三十一條 二車以上引續行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ二間以上ノ距離ヲ取ルヘシ
  - 第三十二條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且ツ馬丁ヲシテ前行セシムヘシ
  - 第三十三條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス
  - 第三十四條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス
  - 第三十五條 車体馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ
  - 第三十六條 定員三分ノ一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス
  - 第三十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查駐在所ヘ届出ツヘシ
- 第五章 乗載制限
- 第三十八條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス但十二年未滿ノモノハ二人ヲ以テ一人ト見做シ五年未滿ノ者ハ定員外トス
  - 第三十九條 左ニ記載シタル者ハ乗載スヘカラス
    - 一 六種傳染病疥癬癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者
    - 二 瘋癲者暴行者亂醉者及乞食体ノ者
    - 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又汚染ノ虞アル物品

四獸類

第六章 駐車場

第四十條 駐車場ハ設置前面ヲ添ヘ地主及隣地主ノ運署ヲ以テ所管警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十一條 駐車場ニハ左ノ雜形ノ標識ヲ設クヘシ



第四十二條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四十三條 駐車場ニ於テ馬匹ヲ繫留スル場所ニハ石煉瓦石敲キ又ハ板ヲ敷キ糞尿ノ地中ニ浸入セサル様尿溜ヲ設クヘシ

第四十四條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 賃錢及保証金

第四十五條 營業者ハ賃錢額ヲ定メ所管警察署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受テ内駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十六條 何等ノ名義ヲ以テスルモ賃錢定額ノ外金錢ヲ請求スヘカラス

第四十七條 營業者ハ出願ノ際身元保証金トシテ左ノ金額ヲ縣廳ニ納ムヘシ

但公債證書國立銀行預券ヲ以テ納ムルゴトヲ得

拾圓

一營業者一人ニ付

一馬車一臺ニ付

五圓

第四十八條 身元保証金ハ營業者及馭者馬丁營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償

ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第四十九條 身元保証金ニ欠額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納セサルトキハ營業ノ効力ヲ失フモノトス

第五十條 身元保証金ハ廢業營業禁止シ又ハ馬車ノ使用ヲ差止メタルトキ馬車ノ數ニ據リ還付スルモノトス

罰則

第五十一條 本則第一條第二條第三條第四條第五條及ヒ第三十九條ニ違背シタルモノハ

二日以上五日以下ノ拘留又ハ二拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第五十二條 本則第八條第九條第二十七條第二十八條第三十二條第四條第四條第八條四

十二條第四十三條第四十五條第四十六條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留

又ハ二十錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第五十三條 本則第六條第十九條第二十一條第二十二條第三十條第三十三條第三十六條

第四十四條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノ

ノハ刑法從フ

○秋田縣令第二十三號 明治廿二年三月七日

貸座敷娼妓取締規則別冊ノ通改定シ來四月一日ヨリ施行ス

貸座敷娼妓取締規則

第一章 通則

- 第一條 貸座敷ノ業ハ縣廳ニ於テ免許シタル區域内娼妓稼ハ貸座敷内ニ限ルモノトス
- 第二條 貸座敷ヲ新ニ開業シ又ハ讓受ケ開業セントスルモノハ族籍住所氏名年齢樓名屋號ヲ定メ寄留娼妓ノ等格人員調ヲ添ヘ取締加印ノ上市長又ハ町村長ノ與印ヲ受ケテ書面ヲ以テ所轄警察署ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ但讓受ケノ願書ニハ讓渡人ノ連署ヲ要ス
- 第三條 未丁年ニシテ後見人ナキ者白痴癡癩瘡癩者及幼者ヲ畧取誘拐スル罪猥褻淫ノ罪ヲ犯シ處刑ヲ受ケタル者並ニ公權剝奪停止中ノモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ義務ノ辨濟ヲ終ヘサルモノハ貸座敷タルコトヲ得ス
- 第四條 娼妓ヲラントスルモノハ願書ニ其情實ヲ詳具シ父兄若クハ親屬ノ内本人ヲ養育スル義務アル者一人及寄留スヘキ貸座敷主ト連署シ其等格ヲ附記シ取締加印ノ上市長又ハ町村長ノ與印ヲ受ケ籍面寫及檢微醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ但十六歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス
- 第五條 貸座敷主ト娼妓ノ契約書ハ願出ノ際所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケ其原本ヲ差出スヘシ
- 第六條 娼妓ニ於テ族籍住所氏名及等格ヲ變換シ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ三日以内ニ取締加印ノ書面ヲ以テ所轄警察署ニ願出更ニ鑑札ヲ受クヘシ貸座敷ニシテ樓名屋號ヲ變換シタルトキハ同上ノ手續ヲ以テ届出ツヘシ但族籍住所氏名ノ變換ハ市長又ハ町村長ノ與印ヲ要ス

二十二年  
令第六十號  
但十五歳  
十六歳ト改

十一條  
除

- 第七條 廢業シタル者ハ三日以内ニ取締加印ノ上市長又ハ町村長ノ與印ヲ受ケ書面ヲ以テ所轄警察署ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ但娼妓ハ寄留貸座敷主ノ連署ヲ要ス
- 第八條 休業又ハ就業セシトキハ前條ノ手續ニ依リ其旨届出ツヘシ
- 第九條 免許鑑札ハ貸借スルコトヲ許サス
- 第十二條 貸座敷及娼妓ハ一區域毎ニ取締ヲ撰舉シ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ但警察署ニ於テ適當ト認メサル時ハ再撰ヲ命ジ又ハ特撰スルコトアルヘシ
- 第十三條 取締ハ貸座敷主二十五年以上ノ男子ニシテ地所又ハ家屋ヲ有シ且ツ業体ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ畧筆筆ニ通スルモノニ限ルヘシ
- 第十四條 取締ノ任期ハ滿二ケ年トス尤モ滿期再撰スルコトヲ得ヘシ但任期中ト雖トモ不都合ノ所爲アルトキハ臨時改撰セシムルコトアルベシ
- 第十五條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項ハ別ニ定ムル所ニ從フヘシ
- 第十六條 貸座敷娼妓ハ一區域毎ニ協議ノ上規約ヲ設ケ取締加印ノ上縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 其改正ノトキ亦同シ但規約ニ入ラサルモノハ其業ヲナスコトヲ得ズ
- 第十七條 遊客ノ内不良ノ徒ト認ムルカ又ハ金錢遺方不審ノ者アルハ娼妓ニ在リテハ貸座敷主貸座敷主ニ在リテハ所轄警察署又ハ巡查駐在所若クハ巡回巡查ニ申出ツヘシ
- 第十八條 貸座敷ニ於テ男女ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ其族籍氏名年齢ヲ詳記シ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ツベシ

第二章 貸座敷

第四類

第四 營業警察

第十九條 貸座敷ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲出シ尙夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

竈
樓名又ハ屋號
〇 貸座敷 氏 名

第二十條 客帳ヲ製置シ客人ノ住所氏名年齢容貌衣服ノ品類等ヲ詳記シ警察官吏ノ求

メアル時ハ開示スベシ但使用後一年間保存スヘシ

第二十一條 學校ノ徽章ヲ着ケタル生徒並ニ十六歳未満ノ者及ヒ婦女ハ客人ノ同伴タリ

トモ遊興セシム可ラス但遊客ニ面接ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第二十二條 酒食其他客ノ需メサル物品ヲ出シ又ハ強コル等ノコトアル可ラス

第二十三條 遊興費ノ抵償トシテ客ノ着服其他ノ物品ヲ受取ルヘカラス若シ不得已場合

ニ於テハ本人ヲ所管警察署ニ同伴シテ其承諾ヲ受クヘシ

第二十四條 娼妓ヲ遇スルニ誠實ヲ旨トシ且ツカメテ正業ニ復セシムル様厚ク注意シ聊

カマリトモ贅費ヲ爲サシムヘカラス

第二十五條 娼妓其規則ニ背キ規約等ニ違フモノアルトキハ所管警察署ニ届出テ其所分

又ハ指圖ニ從フヘシ貸座敷ニ於テ濫リニ矯正ノ處置ヲ爲スヘカラス

第二十六條 娼妓轉寓廢業又ハ他出セントスル者アルトキハ當然ノ理由ナクシテ故障ス

ヘカラス

第二十七條 娼妓疾病アルトキハ速カニ醫師ヲ招キ診療ヲ受ケシムヘシ但微毒ニ罹リタ

ル者アルトキハ其定規ニ依ルヘシ

第二十八條 寓居ノ娼妓逃亡又ハ立戻リタルトキハ貸座敷主ニ於テ取締加印ノ書面ヲ以

テ所管警察署ニ届出ツヘシ

第二十九條 業体ニ關シ貸座敷主ト娼妓ノ關ニ紛議ヲ生シ裁判所ニ出訴セントスルトキ

ハ其事由ヲ所管警察署ニ申出ツヘシ

第三章 娼妓

第三十條 娼妓免許ノ期限ハ滿三年以内トス其期限滿タル者ハ貸座敷主ト結約其他如

何ナル事情アルチ問ハス鑑札ヲ返納スベシ

第三十一條 前條滿期ノ者猶其業ヲ繼續セントスルトキハ更ニ新規ノ手續ヲ以テ願出免

許鑑札ヲ受クベシ但其期限ハ前後通算シテ六年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十二條 娼妓ハ平常貸座敷内ニ寄寓スベシ若シ其寓居ヲ轉換セントスルモノハ雙方

ノ貸座敷主ト連署ノ書面ニ取締加印ノ上所管警察署ヘ願出鑑札ノ書換ヲ受クベシ但其

期限ハ前後ヲ通算シテ定限ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十三條 娼妓ハ毎土曜日檢査所ニ出頭シ身体ノ檢査ヲ受クベシ其有毒ノ者ハ警察官

吏ノ命ニ依リ驅微室ニ入ルヘシ但當日疾病又ハ事故アリ出頭スルコト能ハサルモノハ

其事由ヲ具シ病氣ハ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ貸座敷主ト連署シ取締加印ノ書面ヲ以テ出

頭時限前檢査所ニ届出ツベシ

第三十四條 檢査定日外ニ於テ微毒ニ感染シタリト思料スルモノ又ハ第三十三條ノ檢査

ヲ受ケサルモノハ就業前臨時檢査ヲ受クヘシ

第三十五條 疾病<sup>微毒</sup>ヲニ罹リ寓居ノ貸座敷ニ於テ治療シ難キモノハ其事由ヲ詳記シ且醫師ノ診斷書ヲ添ヘ貸座敷主連署ノ書面ニ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出認可ヲ受クヘシ

第三十六條 祖父父母伯叔父母兄弟姊妹ノ吉凶又ハ看病或ハ父母ノ墓參ノ外濫リニ他行スルコトヲ得ス最モ他行スルトキハ必ス貸座敷主ヲ經テ取締ノ承認ヲ得且其証ヲ携帶スヘシ但旅行又ハ宿泊ヲ要スルトキハ貸座敷主通署ノ書面ニ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出認可ヲ受クヘシ藝妓兼業ノ娼妓モ亦同シ

第三十七條 貸座敷主ニ於テ不當ノ失費ヲ強ヒ又ハ當然ノ理由ナク轉寓及廢業ヲ故障シ或ハ規則若クハ規約ニ違フノ故ヲ以テ苛酷ノ取扱ヲ爲シ其他不誠實ノ所爲アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡査駐在所若クハ巡行巡査ニ訴出ツルコトヲ得ヘシ

第四章 罰則

第三十八條 本則第一條第三條第五條第十條第十三條第十四條第十五條第三十七條第四章ヲ除クノ外各條ヲ犯シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ所ス

○第四號

明治十八年一月十六日

警察本部

湯屋及彫刻師營業者現員表別紙書式ニ做ヒ毎年一月一日ノ現在調ヲ以テ翌月十日限り各警察署ヨリ可爲差出此旨相達候事

明治何年何月何日調査

湯屋 營業者 現員表

何警察署

免許年月日	住處	身分	氏名
明治何年何月何日調査	彫刻師	營業者現員表	何警察署
免許年月日	住處	身分	氏名

○廳第二百二號 明治廿年九月十七日 警察本部  
南秋田郡秋田南鉄炮町百九番地ヨリ百十二番地迄貸座敷免許地ニ追加ス 右訓令ス

第四類

第五 司法警察

○甲第八十六號

明治十二年五月八日

明治九年本縣第四百三十五番ヲ以テ盜難屆書式觸示置候處今般廢止候條以來盜難屆書ハ可成短簡ニシテ速ニ可届出候萬一屆書取調ノ爲メ時日遷延候テハ賊徒探偵捕獲ノ機會ヲ

失ヒ候ニ付右様ノ節ハ口述ヲ以テ届ケ出ルモ妨無之候此旨布達候事

但現場ノ景狀並盜失物ノ品類衣服ノ色別等差異無之様可申出候事

○甲第九十二號

明治十七年十一月廿八日

本縣違警罪及警察規則ニ於テ市街ト稱スルハ左ノ町村トス此旨布達候事

但該町村内ト雖トモ人家散在ノ部落ハ本文ノ限ニ在ラス

秋田警察署管内

保戸野村

手形町ノ内字 蛇野

秋田町 各町

泉村ノ内字 下八町

八橋村

寺内村

川尻村

相染薮田村

百三段新屋村

土崎港 各町

下蛇川村

濱井川村

大久保村

一日市村

五十目村

船越村

船川村

戸島村

牛嶋村

北浦村

和田村

大館警察署管内

北浦村

東大館町

西大館町

釋迦内村

扇田村

十二所町

緩子村

李岱村

米内澤村

鷹巢村

銀山町

小澤鐵山

水無村

尾去澤鐵山

毛馬内村

花輪村

小坂鐵山

本庄警察署管内

出戸町村

石脇村

本庄町 各町

金浦村

平澤村

鹽越村

城内村

田中村

前郷村

新澤村

七日町村

館村

能代警察署管内

七井村

龜田町

八森村

槍山町

能代町 各町

向能代村

森岡村

鶴形村

鹿渡村

二ッ井村

豐岡金田村

大曲警察署管内

生保内村

飛根村

六郷村

金澤本町村

大曲村

花館村

北橋岡村

花館村

神宮寺村

長野村

刈和野村

上淀川村

境村

角館町 各町

横手警察署管内

境村

横手町 各町  
 大森村 沼館村 角間川村  
 淺舞村 醐村 今宿村  
 十文字新田村 增田村  
 湯澤町 湯澤警察署管内  
 上下院内村 岩崎町  
 八面村 院内銀山町 横堀村  
 西馬音内村  
 ○甲第二十四號 明治十八年四月十五日  
 明治十五年四月本縣甲第五十五號ヲ以テ盜難届出方之儀布達候所自今ハ警察官ニ告訴ヲ爲シタル場合ニ限リ届出ニ不及候條此旨布達候事  
 ○縣令第六十一號 明治廿一年九月十三日  
 本縣違警罪別冊之通改定ス  
 秋田縣違警罪  
 第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
 一 旅行免狀ヲ持テサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者  
 二 飲用水ヲ汚濁シ又ハ用水路ニ障碍ヲ爲シタル者  
 三 毒藥劇藥又ハ氣發物ヲ用ヒ魚鳥ヲ捕フル者

四 病死ノ禽獸タルヲ知テ食料ニ販賣シタル者  
 五 營業稅雜種稅取締規則ニ違背シタル者  
 六 墓地及埋葬取締規則又ハ其細則ニ違背シタル者  
 七 陸運諸荷物受負及人馬繼立營業取締規則ニ違背シタル者  
 八 船燈信號器取締規則ニ違背シタル者  
 九 徒ヲニ土砂留メ水陸ノ柵杭及水量標等ヲ毀損シタル者  
 十 車夫馬丁又ハ日雇稼ノ者仲間ヲ結ヒ他人ノ稼業ニ故障ヲ爲シタル者  
 十一 神佛祭典ニ托シ強テ出費ヲ促シタル者  
 十二 強テ合力ヲ申懸ケ或ハ物品ヲ押賣シタル者  
 十三 人ノ求メナクシテ強能ヲ街賣シ米錢等ヲ強請シタル者  
 第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
 一 屬籍氏名ヲ詐稱シテ止宿シタル者  
 二 正當ノ事故ナクシテ官署ノ呼出ニ不參シタル者  
 三 他人ノ持場ニ於テ漁獵ヲ爲シタル者但竿釣鉗突スルハ此限ニ在ラス  
 四 禁止ノ場所ニ於テ漁獵ヲ爲シ又ハ禁止ノ漁獵ヲ爲シタル者  
 五 祭典又ハ祝賀等ニ乘シ他人ノ妨害ヲ爲シタル者  
 六 水路ニ柵杭等ヲ設ケ舟筏ノ通路ヲ妨ケタル者  
 七 人家稠密ノ場所ニ於テ松明ヲ燈シ通行シタル者  
 八 市街ニ於テ蓋ナキ桶ヲ以テ肥糞類ヲ運搬シタル者

九便處ノ設ケアル市街ニ於テ濫リニ兩便ヲナシタル者  
十口取ナキ駄馬ニ乘リ市街又ハ群集ノ場處ヲ通行シタル者  
十一袒裼裸体シテ制止ヲ肯ンセサル者  
十二各處ニ榜示セル禁條ヲ犯シタル者但刑法ニ正條アルモノハ刑注ニ從フ

○乙第三十五號 明治十九年三月十九日

郡役所 町村戸長役場

違警罪事件ニ付警察署又ハ分署ヨリ呼出狀若クハ言渡書ノ送達方所管戸長へ囑託有之時  
ハ速ニ本人ニ送達シ受領書ヲ徴シ置クヘシ此旨相達候事

○第二百七號 明治十六年十二月廿四日

警察本署

監視執行手續別紙ノ通り改定候條此旨相達候事

監視執行手續

第一章 通則

第一條 監獄署又ハ裁判所最近ノ警察署ニ於テ被監視人ノ護送ヲ受ケタルトキハ監視期  
算滿期書及刑名宣告書又ハ仮出獄証票ノ謄本等ヲ點檢シ刑法付則(以下付則)第二十五  
條ニ依リ旅券ヲ付與シ發程セシムヘシ  
第二條 被監視人發程ト同時ニ前條ノ文書ハ監視執行地ノ警察署又ハ分署へ郵送スヘシ  
第三條 警察署又ハ分署ニ於テハ附録ノ書式ニ依リ監視簿ヲ製シ置キ最近ノ警察署又ハ  
直チニ典獄檢察官ヨリ被監視人ノ送付アリタルトキハ前條ノ文書ヲ檢閱シ監視期限住

所氏名等ヲ該簿ニ詳記シ付則第二十六條ニ依リ監視票ヲ下付スヘシ

第四條 總テノ旅券及監視票ヲ下付スルトキハ警部又ハ警部補訊問所ニ於テ遵守スヘキ  
條件ヲ讀聞セ之ニ違背スルトキハ處罰セラルヘキ旨ヲ諭示スヘシ

第五條 被監視人既ニ到若シ手續第二條(以下何條)ノ文書郵達セサルトキハ住所氏名ノ  
ミヲ記載シ監視票ヲ下付スルトキハ得但文書郵達シタルトキハ速カニ刑名刑期監視期  
限罪質犯數ヲ該票ニ記入スヘシ

第六條 前條ノ文書郵達シテ被監視人到着セサルトキハ直チニ巡查ヲ派遣シテ住所其他  
ヲ捜査セシメ所在不明ニシテ逃走ト思料シタルトキハ証憑書類ヲ添へ所管檢事へ告發  
ノ手續ヲナスヘシ

第七條 第三條第六條ノ處分ヲ終ヘタルトキハ旅券ヲ下付シタル警察署ニ通報スヘシ

第八條 被監視人自己ノ謹慎ヲ表スル爲メ出署シタルトキハ警部又ハ警部補之ヲ訊問所  
ニ延キ監視票記載ノ條件ニ就キ能ク遵守スルヤ否ヤヲ審問シ該票ニハ出頭ノ日時ヲ記  
入シ認印シテ下付スヘシ

監視簿ニハ出頭ノ日時及慎否ノ狀ヲ概記シ以テ後日ノ参照ニ供スヘシ

第九條 疾病旅行等ノ事故ニ依リ不參ノ届出アルトキハ直チニ巡查ヲ派遣シテ實否ヲ監  
査セシメ其復命ニ依リ監視簿ニ相當ノ記入ヲナスヘシ但疾病ハ主治醫ノ診按書ヲ添へ  
シムヘシ

第十條 前條不參シタル者ハ次回出署ノ際監視票ニ不參ノ日時及其ノ事由ヲ記入スヘシ  
第十一條 移住セントコトヲ請願スル者アルトキハ其事實ヲ審按シ移住セントスル地ノ警



察署又ハ分署ニ照牒シ監視執行上差支ナキトキハ之ヲ許可スヘシ  
移住ヲ許可シタルトキ第二條ノ文書ハ轉住地ノ警察署又ハ分署ニ郵送シ監視簿ノ氏名  
ヲ削除スヘシ

第十三條 總テノ旅行中ニ於テ天災又ハ疾病ノ爲メ滞留シタル者其證ヲ請求スルトキハ  
事實ヲ審按シ付録ノ書式ニ依リ證明書ヲ下與スヘシ但疾病ハ主治醫ノ診按書ヲ添ヘシ  
ムルヲ要ス

第十四條 監視滿限ノ日監視票ヲ返納シタルトキハ懇篤將來ヲ戒諭シ監視簿ノ氏名ヲ消  
除スヘシ

第十五條 還納シタル監視票及旅券ハ編冊シテ保存スヘシ

第二章 附加刑監視

第十六條 毎月二回以上不時ニ巡查ヲ派遣シ被監視人ノ行狀ヲ監察セシムヘシ其監臨シ  
タル日時及慎否ノ狀況ハ監視簿ニ概記シ置クヘシ

第十七條 他府縣ニ旅行セシトキハ請願スル者アルトキハ其實質ヲ審按シ己ムヲ得サル事  
故ト認ムル者ハ之ヲ許可シ付録第三十條ニ依リ旅券ヲ付與スヘシ轉住ノ爲メ他府縣ニ  
旅行スル者モ亦同シ旅行ヲ許可シタルトキハ其日數及事故等ヲ詳記シ旅行滞留地ノ警  
察又ハ分署ニ通報スヘシ

第十八條 管外ノ被監視人ニシテ管内ニ旅行滞留スル者付録第三十條ニ依リ出署シタル  
トキハ旅券ヲ査閱シ其裏面ニ滞留日期及滞在ノ場所ヲ記入シ認印シテ下付スヘシ  
滞留中ノ監察ハ第十六條ノ手續ニ從フヘシ

第十九條 被監視人悔悟改メノ狀顯著ニシテ付録第三十六條ニ依リ免監視ノ具狀ヲナス  
トキハ本廳ヲ經由スヘシ

第三章 特別監視

第二十條 毎週一回以上第十六條ノ手續ニ依リ監察セシムヘシ

第二十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者付録第四十一條ニ依リ財産ヲ治メ又ハ職業ヲ營  
マンコトヲ請願スルトキハ悔悟謹慎ノ實否ヲ監査シ之ヲ許可スヘシ但分署ニ於テハ所  
屬署ノ批可ヲ請フモノトス

第二十二條 前條ノ請願ヲ許可シタルトキハ付録ノ書式ニ依リ其證ヲ付與シ速カニ本廳  
ニ具申スヘシ

第二十三條 主刑滿限ノ日ニ至リ付録第四十六條ニ依リ典獄ニ遞送スルトキハ本人ハ請  
書ヲ徴シテ出發セシメ同時ニ郵便ヲ以テ通報スヘシ

第二十四條 主刑滿限ノ後監視ニ付スヘキ者ハ第一章第二章ノ手續ニ依リ直チニ監視ヲ  
執行スヘシ

第一圖



七百五十八

紙濃美紙用

禁錮又ハ懲役何年何月	住所身分	年月日	氏名
附加監視何年何月	同	同	同
出頭	頭	監	臨
月日時	謹慎月日	同	同
同	同	同	同
同	病氣不參	同	同
同	同	同	同
何月何日ヨリ何月何日マテ何地ヘ	同	同	同
旅行ヲ許可ス	同	同	同
何月何日満期又ハ何地ヘ移住ヲ許	同	同	同
ス	同	同	同
イ	同	同	同
禁錮又ハ懲役何年何月	住所身分	年月日	氏名
特別監視何年何月	同	同	同
月日時	謹慎月日	同	同
同	同	同	同
同	病氣不參	同	同
同	同	同	同
何月何日何地ニ移住ス又ハ満期ニ	同	同	同
付典獄ニ進送ス	同	同	同
サ	同	同	同

第二圖 手續第十三條 證明書ノ書式

切ッ四書奉紙用

證

住所身分

被監視人 氏名 年齢

右ノ者某地ヨリ某地ヘ旅行中川留雪支又ハ何々或ハ疾病ノ爲メ何年何月何日何地ニ滞留ス依テ其事實ヲ證明スル爲メ此ノ證ヲ付與スル者也

明治何年何月何日

秋田縣何警察署又ハ分署

警部又ハ警部補何某印

印

第三圖 手續第二十二條 認可證ノ書式

證

住所身分

刑名刑期 何年何月何日宣告 氏名 年齢

何年何月何日満期

仮出獄何年何月何日許可

特別監視何年何月 何年何月何日起

何年何月何日満

右ノ者特別監視中自ラ財産ヲ治ムルコト或ハ何職業ヲ營ムコトヲ許可ス依テ此證ヲ付與スル者也

明治何年何月何日

秋田縣何警察署又ハ分署

警部又ハ警部補何某印

印

第四類 第五 司法警察

七百五十九

○警甲第一百三十一號 明治十九年三月十一日

違警罪即決手續別紙之通相定ム

右相違ス

別紙 違警罪即決手續

第一條 司法警察官及巡查違警罪ノ現行犯ヲ認メ告發スルトキハ被告人ニ其所爲ノ違警罪タルヲ告知シ且ツ豫メ日時ヲ定メ警察署又ハ分署ヘ出頭スヘキヲ命スヘシ 其住所氏名分明ナラス又ハ逃亡ノ恐れアルモノハ直チニ引致スヘシ

第二條 警察署長又ハ分署長違警罪ノ告訴告發ヲ受テ被告人前條出頭ノ指命ヲ受ケスシテ其陳述ヲ聽クニ必要ト思料スルトキハ呼出狀ヲ發スヘシ 呼出狀ハ小使又ハ郵便ヲ以テ送達スヘシ時宜ニ因リ戸長役場ヘ囑托スルヲ得

第三條 出廷又ハ引致シタル被告人ハ直チニ其ノ陳述ヲ聽キ即時ニ言渡ヲナスヘキモノトス

第四條 被告事件證據確實ナルトキハ刑ノ言渡ヲナシ治罪法第二百二十四條各項ニ該當スル場合ハ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲナスヘシ

第五條 被告事件管轄違ナルトキハ別ニ言渡ヲ用ヘス直チニ所管警察署又ハ分署ニ送致スヘシ

第六條 被告人ノ住所々管外ニアルトキハ其地ノ警察署又ハ分署ニ其處分ヲ囑托スルヲ得但既ニ出頭ヲ指命シタル者ハ此限リニ在ラス

第七條 左ノ場合ニ於テハ欠席裁判言渡ヲナスコトヲ得

一 被告人出頭ノ指命又ハ呼出ヲ受ケ其日時ニ出頭セサル時

一 被告事件證據確實ト思料スルトキ

第八條

一 言渡書ハ小使ヲ以テ送達シ又ハ書留郵便ニ付スルヲ得

一 被告人ノ住所々管外ニアルトキハ其地ノ警察署又ハ分署ニ送達方ヲ囑托シ又ハ所管内ニシテ遠隔ナルトキハ其他戸長ニ之ヲ囑托スルコトヲ得

一 科料金ノ仮納及拘留ノ保証金ヲ要スルトキハ特ニ巡查ヲシテ言渡書ヲ送達セシメ該金ヲ即納セシムヘシ若シ肯セサルトキハ直チニ引致セシムヘシ

一 前項ノ場合ヲ除キ言渡確定シテ拘留ニ處シタルモノ出廷セス科料ニ處シタルモノ限内完納セサルトキハ速ニ之ヲ召喚シ尙ホ應セサルトキハ巡查ヲシテ引致セシムヘシ

第九條 科料ノ言渡ヲ受ケタルモノ限内完納セスシテ資力ナキモノト認ムルトキハ直チニ換刑ノ處分ヲナスコトヲ得

第十條 科料金及其仮納金拘留ノ保証金ハ納證ヲ付シテ上納セシメ其領收證ヲ下付スヘシ但仮返納金保證金ハ即時完納セシムルモノトス

第十一條 仮納金及保證金ヲ徵收シタル被告人正式裁判ヲ請求シタルトキハ一件書類ト共ニ該金ヲ檢察官ニ送致スヘシ

第十二條 拘留ノ執行及留置ノ處分ハ監獄署在地ハ其拘留員又ハ留置場監獄アラサル地ハ警察署又ハ分署ノ留置場ニ於テスヘシ

第十三條 即決ノ言渡確定シタルトキハ既決犯罪表ヲ裝置スヘシ但賸本數葉ヲ作リ當該

附録書式  
告發書

住所身分職業  
被告人 氏 名

何年何月何日何所ニ於テ何々スル者ヲ認メタリ其住所氏名等ヲ問フニ前記ノ如ク陳述セ

右ハ刑法 違警罪第何條何項ノ運犯者(ニシテ逃亡ノ恐レ又ハ何々ナルヲ以テ)ニ付及告發

(直チニ引致及告發)候也

但被告人ハ何月日時當警察署(分署)へ出頭スヘキコトヲ指命シタリ

年 月 日 何警察(何分)署 官 氏 名 印

何警察署長又ハ分署長

官 氏 名 宛  
呼出狀

何府何國何郡何村何番地

士族職業  
平民職業

逆警罪事件ニ付取調ノ筋有之候條來月何日午前何時當署へ出頭可致モノ也 氏 名

年 月 日 何警察署長又ハ分署長

陳述書 秋田縣警部同補又巡查氏名印

何府何國何村何番地

士族職業  
平民職業

前科 氏 名 年齡

明治何年何月何日午後何時何分秋田縣何郡何村ニ於テ何々、、、、、何某ヨリ告訴

ヲ受ケ候事 右陳述ヲ讀聞セタルニ相違ナキ旨申立タリ依テ共ニ署名捺印スルモノ也

年 月 日 於何警察署何分署 被告人 氏 名 印

何警察署長又ハ分署長 何警察署長何分署長

秋田縣警部同補又ハ巡查氏名印

即決言渡書

何府何國何郡何町何番地

士族  
平民  
職業

氏

名

年齡

明治何年何月何日午前何時秋田縣何町ニ於テ何々ヲ爲シタルハ刑法違警罪第何條何項ヲ犯シタルニ付拘留何日ヲ言渡ス者也

但此言渡ニ對シ言渡ヲ受ケタルヨリ何日以内ニ正式ノ裁判ヲ請求スルヲ得ヘシ

於何警察何分署

署長

秋田縣警部同補又巡查氏名印

假納  
保證金言渡書

何年月日刑法  
本縣違警罪第何條何項ニ依リ科有金何圓(拘留何日)言渡シタル所右金額即時仮納(右刑期ニ相當スル保證金何圓即納)スヘキモノ也

換刑及換刑ヲ經クノ命令書

何年月日刑法  
本縣違警罪第何條何項ニ依リ科料若干ト言渡ヲ爲シタル限内完納セサルヲ以テ拘留何日ニ換(タル處本日刑日數幾日切ノ科料若干ヲ上納シタル付放免)ユル(スル)モノナリ

假納  
保證金領收證書

一金何圓也

右何某(違警罪科料金(假納)(拘留保證金トシテ正ニ領收候也

何警察署又分署

官 氏

名 印

警察本部

明治廿年一月廿一日

○廳第十五號  
違警罪第一條第二項屬籍身分氏名職業等ヲ詐稱シテ止宿シタル者トハ單ニ各處ニ於テ犯シタル者ヲ制裁スヘキモノトス

右訓令ス

○秋田縣訓令第三十七號 明治廿二年四月廿三日

警察本部

犯罪人視察手續別紙之通相定メ來五月一日ヨリ施行ス

(別紙) 犯罪人視察手續

第一條 犯罪豫防及捜査ニ便センカ爲メ警察本部及警察分署ニ犯罪人名札(其様式索引紙ニ同シ)ヲ製置シ其方法ハ綴合セサル紙葉ヲイロハ別ニ列序シ之ヲ函中ニ藏スルモノトス但警察本部ニ於テハ索引紙ヲ以テ之ヲ兼用スヘシ

第二條 犯罪人名札ニハ明治十五年一月後禁錮以上ノ刑(賭博犯ニシテ司法上ノ處分ヲ罰ヲ受ケタマハル者亦同シ)ニ處セラレタルモノハ總テ之ヲ記載スヘシ(受ケタル者ハ勿論行政上ノ懲罰者亦同シ)明治十四年十二月前處斷ヲ受ケ同十五年一月後出獄シタル者亦同シ

第三條 警察本部保安課ニ於テ索引手續第三ニ依リ報告紙ノ送致ヲ受ケタルトキハ直ニ犯罪人名札ニ登録シ報告紙ハ所轄警察署ニ送付スヘシ

若シ犯罪人ノ住所分署ノ部内ニ係ルトキハ所轄警察署ニ於テ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ警察分署ニ於テ賭博犯ヲ處斷シタルトキハ犯罪人名札ニ葉ヲ製シ警察本部保安課及犯人住地ノ所轄警察署ヘ各一葉送付スベシ

第四條 總テ犯罪人名札ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ關係官署ニ通報シ其保管ニ屬スル名札ヲ訂正セシムヘシ

但轉居ハ其轉住ノ地ノ官署ニ名札ヲ送致スヘシ

第五條 管區受持巡査ハ戸口調査簿ヲ以テ犯罪人名札ニ代用スヘシ

但其書式ハ總テ此手續ニ從フヘシ

第六條 管區受持巡査ハ其區内ニ住スル犯罪人ノ異動ヲ常ニ視察スヘシ

廿二年六月  
訓令乙第二  
十四號ニテ  
改正

第七條 犯罪人旅行スルトキハ時宜ニ依リ先方ノ地ノ警察分署ニ通報スヘシ

第四類

第六 雜 款

○甲第五號 明治十八年二月十日

火藥類及煙火「マツチ」ニ關スル願伺書等ハ總テ所管警察署ヲ經由シ指出スヘシ此旨布達候事

○甲第二十五號 明治十八年四月十五日

行政上ノ處分ニ付警察本分署ヘ差出ス願伺書ハ渾テ戸長ノ奥印ヲ受クヘク其届出ニ止マルモノハ別ニ規則ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外奥印ヲ受クルニ不及候條此旨布達候事 但明治十五年九月甲第二百二十九號布達ハ廢止ス

○甲第二十二號 明治十九年三月五日

橋梁渡津等賃錢請求ノ許可ヲ受ケタルモノト雖トモ警部巡査ハ制服着用ノ節看守押丁ハ囚人護送ノ時ヲ限リ其囚人一同ニ對シテハ府縣ノ自他ヲ問ハス賃錢請求不相成候條此旨布達候事

○甲第四十九號 明治十九年六月十九日

秋田警察署所管内ノ警察取締ニ屬スル諸願届及犯罪ノ告訴告發ニシテ土崎港各町相染新田村寺内村ニ起ル條件ハ土崎出張所ニ差出スヘシ 但本文以外ノ町村ト雖モ秋田警察署直轄内ニ在テハ便宜ニ依リ該出張所ニ差出ヌ

トテ得  
右布達ス

○秋田縣令第三十五號 明治廿一年三月廿一日  
明治廿一年秋田縣令第二十四號ヲ以テ發布シタル警察上ノ取締ニ屬スル諸願届中人民ノ便宜ニ依リ所管警察署又ハ分署宛ヲ以テ所轄ノ巡査駐在所へ差出スコトヲ得ヘキ事項ハ巡査ノ巡回先ニモ之ヲ差出スコトヲ得

○告示第三十號 明治二十年三月十八日  
遺失物届ハ遺失ノ場所日時及其物品ヲ記載シ郵便はかきヲ以テ届出ツルモ妨ナシ

○告示第十六號 明治廿年十月卅一日  
警察上ニ關シ警察署分署又ハ巡査派出所へ差出ス總テノ願届ハ休暇若クハ當務時間外ニ於テ差出スモ妨ナシ

前項ノ願届ニシテ急速ヲ要スル職若クハ自書スルコト能ハサルモノハ口述ヲ以テスルコトヲ得  
但營業上ニ關スルモノ又ハ兵長ノ與印ヲ要スル者ハ此限ニアラス

○第六十四號

明治十七年五月六日

警察本署

自今警察官ニ於テ疾病又ハ其他ノ事故ニヨリ俵服着用出務スル場合ハ其事由ヲ詳記シ醫師之診斷書ヲ付シ届出ル義ト可相心得此旨相達候事

○第百十二號

明治十七年六月廿八日

警察本署

各警察署金錢物品受渡手續別紙之通相定候條本年七月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

警察署金錢物品受渡手續

第一條 分署經費受取ノ期日ヲ一日十五日(休暇ナレ)ノ兩度ト定メ實際仕拂フヘキ金額前以テ所管警察署(署直管分署ハ)へ請求シ定日ニ當リ便宜ノ方法ヲ以テ現金ヲ領受シ成規ニ照シ三日内仕拂チナシ其翌日實費證書ニ精算書ヲ添ヘ送付スヘシ若シ殘餘ヲ生スルコトアルトキハ其都度返納スヘシ

第二條 豫備金ハ前條定日ニ依リ難キ至急ノ仕拂或ハ巡査交替ノ場合各成規ニ依リ月俸或ハ赴任旅費ノ繰替チナスモノトス  
但シ本條ノ場合ニ於テ分署經費ニ屬スルモノハ前條定日ノ受取金ヲ以テ填補シ其他ハ繰替ノ翌日所管警察署ニ請求スヘシ

第三條 諸收入金ノ内違警罪科料金拾得金ノ類ハ一ヶ月分取纏翌月一日(休暇ナレ)巡査積金懲罰金等ノ如キ月俸ヨリ扣除スルモノハ精算書一同所管警察署へ送納スヘシ

第四條 備付品及消耗品ハ其土地ノ便否價ハ高低ニ依リ所管警察署ヨリ現品ヲ以テ受取ルト其地ニ於テ購求スルトハ適宜ナルヘシ尤モ分署ニ於テ購求スル場合ハ積書ヲ徵シ價格ノ當否ヲ實査シテ購求チナスモノトス  
但物品購求ノ積書ハ一ヶ月分取纏翌月一日所管警察署へ送付シ價ノ高低ヲ比較スルノ便ニ供スヘシ

第五條 金錢物品ノ出納及請求書受領證上納精算書仕譯書式ハ別紙雜形ニ依ルヘシ  
第六條 前條條ノ外現金取締其他金箱開閉等ノ手續ハ明治十六年七月十八日第百二十四號達會計事務取扱順序概則ニ依ルヘシ

(第五條雜形略ス)

明治十七年七月七日

警察本署

○無號  
自今巡查甲署ヨリ乙署へ赴任ニ際シ成規ニ依リ月俸繰替渡ヲナストキハ甲署ニ於テ同月分積金相當ノ金額ヲ引去リ相渡シ右月俸本渡ノ節繰替金繰戻方并ニ積金會計課へ送付方ハ総テ乙署ニ於テ可取計此旨相達候事

但本文繰替ヲナシタルトキハ即日甲署ヨリ乙署へ報告ヲナスヘシ

○第二百六號

明治十七年十月廿八日

警察本署

證書類調理順序之義ニ付各警察署へ別紙ノ通相達候條爲心得此旨相達候事

證書類調理順序

- 一 支出證書類ハ月々各經費毎ニ區分シ付スルニ表紙ヲ以テシ勘定科目限類緝金員之合計及證書ノ枚數ヲ掲記スベシ但一ノ證書ニシテ内課科目中例へハ甲乙科目ノ種類ヲ混併記載セシモノアルカ如キハ乙科目ノ分ハ金員ノ肩ニ其旨ヲ朱記シ該證書ハ之レヲ甲科目ニ編入シ乙科目ニ於テハ其所屬金員及元證書ノ番號ヲ朱記セル寫書ヲ編入スヘシ
- 一 支出證書ハ正當受取人ノ領收證書ニ限ルヘシ
- 一 物品之類約定期購買ニ係ル仕拂ハ領收證書ハ其約定書ヲ添付スベシ
- 一 精算證書ハ其仮拂金ノ領收證書ヲ添付スベシ但旅費精算ノ如キ一ノ仮拂金ニ對シ一二回ニ精算スル分ハ甲精算書ニ仮拂證書ヲ添付シ乙精算書へハ甲精算濟金額ヲ朱記セル寫書ヲ添付シ若シ過上金アルトキハ右返納證書ヲ添付スベシ
- 一 收入書類ノ調理方ハ總テ支出證書ノ例ニ倣フベシ但別ニ規則アルモノハ其規則ニ據ルベシ

一 收入證書ハ正當納金者ノ納金證書ニ限ル

一 物品之類入札拂ニ係ル分ハ其納金證書ニ落札人ノ請書ヲ添付スヘシ

一 收入金本廳へ送納以前ニ於テ過誤納發見下戻タルトキハ該金受取證書ヲ納金證書ニ添付スヘシ但送納後下戻ニ係ル金員受取證書其都度進達スヘシ

一 支出證書及收入證書ハ其書面上端ニ於テ各順序ヲ遂ヒ一括限リ一ヶ月ヲ通シタル番號ヲ朱書シ其最尾ニ最尾ノ旨ヲ記入スヘシ

一 支出即チ領收證書ハ領收者ヲシテ左ノ各項ニ從ヒ之ヲ調成セシムヘシ

一 本拂ニ係ル領收證書ハ物件事由等詳記シ都テ金額ノ算出ニ係ルモノヲ詳悉スルコト但シ其明細ハ別書ヲ以テ領收證書ニ添付スルモ妨ナシ

一 仮拂ニ係ル領收證書ハ仮拂ヲ要スル事由及既定若クハ概定金額ノ内拂ニ係ルモノハ其額ヲ記載スル事

一 仮拂ニ係ル不足金ノ領收證書若クハ過上金ノ返納證書ハ其全部精算明細及仮拂金ノ對比計算ヲ詳悉スル事但本拂之違算ニ係ル精算書モ亦之ニ準ス

一 收入即チ納金證書ハ其納金者ヲシテ物件事由等都テ金額之算出ニ係ルモノヲ詳悉記載セシムヘシ

一 町村費等各所限リ収支スル金種ニ屬スル證書類ハ都テ前各項ニ據リ調理シ各所ニ保存スヘシ

○第二百十八號

明治十七年十一月十四日

警察本署

諸經費勘定仕上ケ方ノ善左ノ通更正候條本年十月ヨリ施行可致此旨相達候事



十八年六月  
三十日追加

七百七十二

一 諸經費勘定仕上ケハ一周年度ヲ十二分シ每一ヶ月分宛勘定帳ヲ編製シ翌月三日(年度  
翌月二)各地差立本廳へ回送スヘシ  
一 諸費ノ假拂アルトキハ本拂ト均シク當該科目ニ編入ス而シテ別ニ假拂任譯書ヲ勘定帳  
へ添付スヘシ  
一 假拂金ノ精算ニ際シ過超返納アルトキハ勘定帳本受ノ部ニ(本月戻入高)ノ一區ヲ設ケ  
而シテ其内譯細科目ヲ分テ整理スヘシ  
○第二百三十號 明治十七年十二月三日 警察本署  
治安裁判所所在地ノ警察署ニ於テ拘束スル既未決囚及其他ノ警察署ニ於テ同様ノ既決囚  
ニ屬スル諸費ハ每一ヶ月分豫メ監獄本署へ請求シ翌月十日限り精算ヲ爲スヘシ此旨相達  
候事  
但秋田警察署ハ本文ノ限ニアラス  
○第十七號 明治十八年二月十三日 警察本署  
郡村吏犯罪上ニ付各署ニ於テ取調ヲ爲シタルトキハ職務上監督ノ都合有之ニ付左ノ條項  
ヲ列記シ着手ヨリ三日以内必ス内申候様可取計此旨相達候事  
一 罪名及ヒ刑名ノ見込  
一 現行準現行非現行ノ區別  
一 告訴發探偵ノ區別  
一 証憑確實ト思料犯罪トノ區別  
一 留置責付等ノ區別

但違警罪ノ科料ニ止ル者ハ本文ノ限ニ非ス  
○警甲第十七號 明治十八年七月廿日 警察本署  
自今各警察署ニ備金ヲ置キ候條左ノ順序ニ依リ管理出納スヘシ此旨相達候事  
各警察署備金管理順序  
一 備金ハ拾圓ヲ定度トシ當該署經費ノ内ヲ以テ假ニ仕拂之レニ充テ年度決算ノ場合戻入  
レヲナスヘシ  
一 備金ノ收支ハ當該署長ノ管掌ニシテ當直警部之ヲ管理スルモノトス  
一 備金ハ退署時間後臨時必要ノ費途ニ對シ一時探替ヲナスモノニシテ其他ノ費途ニ充ツ  
ルヲ得ス  
一 備金ヲ以テ探替ヲナスヘキ項目左ノ如シ  
一 囚人護送ニ係ル巡査旅費及諸費  
一 急事ニ付テ要スル旅費及諸費  
一 三犯人寄託金  
但事業ヲ告ケ即刻拂戻ヲ要求スル分ニ限ル  
一 備金ヲ以テ探替タル金額ハ翌日ハ其翌日ハ必ス請求補填スヘシ  
一 備金ハ一抵冊ヲ設ケ之レヲ出納シ其收支ハ毎月二回(十五日)休暇ナレ 當該署長ニ於テ  
改査認印スヘシ  
一 備金ノ出納ハ會計課員ヲシテ時々檢査セシムヘシ  
○第四百十二號 明治十八年八月廿五日 警察本署

第四類 第六 雜款

七百七十三

明治十七年度ヨリ經費決算報告書別紙式ニ準シ調製年度後四ヶ月以内ニ可差出此旨相違候事 (本文割註及但書ハ略ス)

(別紙)

經費決算報告書々式凡例

第一條 經費決算報告書ハ該會計年度豫算決算及前年度決算ノ員額ヲ掲ケ之ヲ比較シ其増減ヲ生セシ事蹟ト員額トヲ明晰記載スルモノトス

但豫算決定後特ニ臨時ノ増減ヲ生セシモノ又ハ科目ノ新設ニ係ル者等ハ大小科目ニ於テ其事由ヲ判明ニ掲出スル者トス

第二條

決算報告書ハ別紙書式ニ準據シ毎大科目ニ於テハ豫算外臨時ノ増費及減額ヲ一廉限リ其事由ト金員トヲ掲ケ其他流用ノ増減ハ之ヲ記載セス仕拂殘ノ金額ヲ掲記スルニ止メ毎小科目ニ於テハ流用ノ増減及仕拂殘ト雖モ其増減ヲ生セシ事由ト金員トヲ明瞭ニ記載スヘシ前期決算ノ比較ハ毎大科目ニ於テハ事由ノ著名ナルモノ及ヒ多額ノ増減ハ一事項毎ニ金員事由ヲ記載シ僅少ノ増減ハ種々ノ事項トシ其金員ヲ掲ケ毎小科目ニ於テハ事由ノ細大金額ノ多寡ニ拘ラス一事由限リ金員ヲ區分詳悉記載スルモノトス

用紙美濃野紙

明治何年度(何々)經費決算報告書

何 所

明治何年度(何々)經費決算報告書

本年度何々(大科目)豫算ノ總計ハ若干圓ニシテ其決算ノ總計ハ若干圓ナリ此總計ヲ比較

スレハ決算ノ豫算ニ減少(超過)スルコト若干圓ナリ

此減少(超過)セシ所以ハ何々ニ依リ若干圓何々ニ依リ若干圓仕拂殘若干圓併セテ若干圓ヲ減少(増加)スルト雖モ何々ニ由リ若干圓何々ニ由リ若干圓併セテ若干圓増加(減少)シシニ由リ前記ノ減少(超過)ニ止ルナリ

本年度決算ノ總計ヲ以テ前年度決算ノ總計若干圓ニ比スレハ本年度決算ノ減少(超過)スルコト若干圓ナリ

此減少(超過)セシ所以ハ何々ニ由リ若干圓何々ニ由リ若干圓種々ノ事項ニ由リ若干圓併セテ若干圓減少(超過)スルト雖モ何々ニ由リ若干圓何々ニ由リ若干圓併セテ若干圓増加(減少)セシニ由リ前記ノ減少(超過)ニ止ルナリ

茲ニ各科目ノ金額ヲ區分シ増減ヲ示ス左表ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	前 期 決 算 額	本期決算ノ増減	
				豫算ニ比シ	前期決算ニ比シ
何々(小科目)					
何々					
何々					
通 計					

右各科目ニ就キ決算額ヲ以テ豫算額ニ比シ其増減盈縮アル事由ヲ説明スル左ノ如シ

何々(小科目)此減少(超過)セシ所以ハ何々ニ由リ若干圓何々ニ由リ若干圓併セテ若干圓減少(増加)スルト雖モ何々ニ由リ若干圓何々ニ由リ若干圓併セテ若干圓増加(減少)セシニ由ル

何々 前例ニ倣フ

何々 同上

又決算額ヲ以テ則年度決算額ニ比シ其増減盈縮アル事由ヲ説明スル左ノ如シ

何々(小科目)此減少(超過)セシ所以ハ(豫算決算ノ例ニ準ス)

何々 同上

何々 同上

本年度何々(大科目)豫算ノ總計ハ若干圓ニシテ決算ノ總計ハ若干圓ナリ此總計ヲ比較スレバ決算ノ豫算ニ減少(超過)スルコト若干圓ナリ

此減少(超過)セシ以所ハ(以下總テ前例ニ準シ小科目迄區分ス可シ)

右明治何年度(何々)經費決算報告書而之通ニ候也

明治何年何月何日

縣令 宛

官名印

○警第四百一十一號 明治十九年三月十五日

警察本署

巡查病氣引籠ノ節差出ス診察書ハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ

右相達ス

診察書

秋田縣巡查

氏名

右病氣ヲ診察スルニ左ノ如シ

一病名

一發病ノ理由

一徵候

一經過 發病ヨリ 診察マテ

一治法

一服務ノ堪否

一豫后ノ目的

病勢ノ劇易ニ依リ服務ニ堪ルヤ否ヤ  
幾週間ニシテ治療スヘシ又ハ不治症

病院名

又ハ

印

年月日時

醫員 氏名

警察本署

○廳第二十九號

明治十九年四月三十日

地方費ニ屬スル各經費豫算流用ノ儀明治十九年度以降左ノ通り之ヲ定ム

一俸給ハ何様ノ事故アルモ他ノ科目ト流用スルヲ許サス

一雜給以下大科目ノ流用ハ萬不得止場合ニ限り稟請ニ依リ許可スルコトアルヘシト雖

モ其年度一月一日以降ニ於テ流用ノ許可ヲ請フコトヲ得ス

但精算上ノ過不足又ハ著大ノ事故アルトキハ此限リニアラス

右相達ス  
 ○警甲第三百三號 明治十九年五月七日 警察本署  
 各警察署會計事務取扱順序概則ヲ廢シ警察署會計事務取扱手續別冊ノ通相定メ十九年度ヨリ施行スヘシ  
 但勘定帳及受領證上納等ノ書式ハ總テ從前ノ雛形ニ準據調理スヘシ (書式略ス)

會計事務取扱手續

第一章 諸經費定額

第一條 警部諸費警察費警察廳舍建築修繕費及請願巡查增置諸費檢徵費トモ豫定ノ額ニ依リ交付スルヲ以テ定額トス

但警部俸給ニ限リ現員ニ依リ交付ス

第二條 前條諸費ノ内警部諸費ハ本廳ヨリ各警察署ヘ其他ハ警察本部ヘ每一ケ月分宛交付スルモノトス

但請願巡查增置費檢徵費ハ六ケ月以内ノ金額ヲ一時下付スルコトアルヘシ

第三條 各警察署警察費以下ノ經費ヲ年度ノ始メニ於テ年額十二分ノ一ヲ支拂元金トシテ警察本部ヨリ交付シ該元金ヲ以テ支出セル經費ハ其月十五日日ノ兩度ニ 巡查增置費ハ毎別紙書式ニ據リ實費證書ヲ添付全本部ヘ請求スルモノトス 諸費及檢

第四條 警察署及分署備金ハ年度ノ始メニ於テ當該署經費ノ内ヲ以テ仮出シ其收支ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ依ル

二十一年度第百九十九號改正

二十一年三月八號改正

全上

第二章 諸收入金送納

第五條 増置費ハ定期内請願者ヨリ徵收シ其時々本廳ヘ送納スヘシ

第六條 巡查積金及懲罰金不用品買却代等ハ收入ノ上取纏メ各期限ノ通送納シ諸科料金其他國庫ニ屬スル收入金ハ別ニ定ムル處ノ規則ニ據ル

第七條 諸收入金ハ總テ支出ニ移用スルヲ得ス

第三章 出納順序

第八條 警察本部及警察本分署經費ニ屬スル金錢物品ノ出納ニ係ル事務ハ本部ニアツテハ警部長警察署ハ署長之ヲ管理シ主計課長各警察署次席警部又ハ警部補ヲ會計主任トシ掌理セシム但次席警部又ハ警部補ノアラサルトキハ署長ニ於テ掌理スヘシ

第九條 金錢ノ支出ニ係ルモノハ受取人ヨリ請求書ヲ徵シ會計主任者ニ於テ勘査精算シテ甲號書式仕拂切符元帳ニ金員事由ヲ登記シ之ニ檢印及甲乙接續ノ所ニ割印(官印又ハ實印シ)署長ノ調印ヲ得切斷シタル仕拂切符ヲ受取人ニ交付受領ノ證印ヲナサシムヘシ

第十條 金錢ノ收納ニ係ルモノハ收納書ヲ徵シ會計主任者ニ於テ勘査シ費目ヲ定メ檢印シ納入ヲシテ爲替方ニ納付セシメ再ヒ該納書ニ爲替方預リ切符ヲ添付差出シタルトキハ乙號書式預収證元帳ニ金額事由ヲ登記シ前條ノ手續ヲ了シ受領證ヲ納入ニ交付スヘシ

第十一條 金錢ヲ各所ヘ送還スルトキハ現金ト爲替券トヲ問ハス凡テ會計主任者ニ於テ支出證書ヲ製シ第九條ノ手續ニ據リ調理スヘシ

二十一年度第百四十四號改正

第十二條 金錢各所ヨリ遞送シ來ルトキハ第十條ノ手續ニ依リ會計主任者ニ於テ爲替方ニ預ケ即日收入スヘシ

第十三條 金錢收支ノ事務ハ回議法ヲ用キス第九條第十條ノ手續ニ據リ警部長署長ニ於テハ調印ヲナスヲ以テ其收支ヲ決議シタルモノトス

第十四條 備品及消耗品ハ凡テ帳簿ニ登記シ需用者ニ證印セシメ之ヲ出納スヘシ

第十五條 分署ニ於テハ分署長ニ非ラザレハ金錢出納上ニ一切關係スルコトヲ得ス但金函開閉ニ際シ首座ノ巡查ヲシテ現金調査ノ立會ヲナサシムヘシ

第十六條 分署金錢物品ノ出納ハ別ニ定ムル處ノ規則ニ據ル

第十七條 當日ノ出納ハ其翌日限リ記帳計表ヲ製シ部長ハ署長ハ署長ノ認印ヲ得ヘシ猶ホ毎月十日二十日尽日ハ前日ノ三日分ハ現金表ヲ添ヒ本處ヘ各署署長ハ差出ニ及スヘシ

第四章 帳簿及勘定

第十八條 計簿冊計表ハ左記ノ通從前ノ雛形ニ準據調製スヘシ  
但補助簿ニ限リ必要ナルトキハ増設スルヲ得

- 一 現金受拂簿
- 一 甲乙原簿
- 一 計算表
- 一 豫算簿
- 一 勘定仕出基帳
- 一 消耗品受拂簿

一 財產基帳		第十九條 警部諸費及警察費警察廳舍建築修繕費增置費檢査費ノ科目ヲ區分スルノ左ノ如シ	
本	款	項	目
應	體給及諸給	奏任俸給	警部長
		判任俸給	警部
		御用係	警部補部
		惠與	勉勵賜金
			賞與

第四類 第六 雜款

御用掛旅費	證人及無罪解放人旅費	諸雇給	滿年賜金	恩賞	被服費	爲替手数料	應費	備品	消耗品	郵便税	電信料	運搬費	諸賄料
-------	------------	-----	------	----	-----	-------	----	----	-----	-----	-----	-----	-----

七百八十三

祭 塗 料	死 傷 手 當	雜 費	旅 費	內 國 旅 費	應 費	旅 費	大 科 目	小 科 目	體 給	雜 給	以上科目ハ流用ヲ許サス 警察費		巡 査 旅 費	御 用 掛 俸 給	巡 査 俸 給
											巡 査 旅 費	御 用 掛 俸 給			

七百八十二

大 科 目	小 科 目	以上大科目ハ流用ヲ許サス實際不得止場合ニ於テ体給ヲ除クノ外ハ其事由ヲ具申シ テ許可ヲ受クヘシ但其手續ハ別段ノ達ニ依ル 警察廳舎建築修繕費	建築費	警察署	警察分署	修繕費	警察署	警察分署	雜費
			建築修繕費	警察署	警察分署	諸費	體給	雜給	諸費

大 科 目	小 科 目	以上大科目ハ流用ヲ許サス實際不得止場合ニ於テハ其事由ヲ具申シテ許可ヲ受クハシ 檢査費 驅檢院費	體給	雜給	諸費	驅檢院費	體給	雜給	諸費	思想者費	建築修繕費	增置費
			體給	雜給	諸費	驅檢院費	體給	雜給	諸費	思想者費	建築修繕費	增置費

以上小科目ハ請願巡查諸費ニ全シ		驅微費	
大	科	目	小
驅	微	費	給
體	諸	患	者
給	費	費	費

以上小科目ハ驅微費諸費ニ全シ

第二十條 警部諸費精算書并ニ警察本部警察費以下現計書及決算ハ帳翌月五日限り本廳ハ差出スヘシ

第二十一條 實費證書ハ明治十七年第二百六號達ニ依リ之レヲ整理シ現計書又ハ精算書ト共ニ本廳ヘ差出スヘシ

但本文証書等ハ撤回會計検査員ヲシテ検査セシムヘシ (書式ハ略ス)

○廳第四十八號 明治十九年十一月廿六日 警察本部

明治十七年十月第九十七號達左之改正ス

右訓令ス

巡查甲署ヨリ乙署ヘ赴任ノ際其月二十日後出發スル者ニ限り二十八日前着任スル者ト

二十八年  
三十八號  
以改正ス  
全上

雖モ該月ノ俸給繰替渡ヲ爲スコトヲ得

但本文繰替金及返納方ハ明治十七年七月第七號達ニ依リ取計フヘシ

○廳第三十九號 明治二十年二月九日 第一部 第二部 警察本部

巡查看守給助細則別紙之通り相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

巡查看守給助細則

第一條 給助例ニ依リ給助ノ額ヲ定ムル左ノ如シ

一 退職給助

勤續滿五年 一時金貳拾五圓

滿六年以上九年マテ一年毎ニ五圓ヲ増給ス

勤續滿十年 年金三拾圓

滿十一年以上毎ニ壹圓ヲ増給ス

二 傷疾給助

一等傷 年金四拾圓

二等傷 年金三拾圓

三 死亡給助

寡婦又ハ相續ノ孤兒 年金三拾圓

死者ニ依リ生計ヲ爲セシ祖父母 一時金百圓

父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹 一時金百圓

相續ノ孤兒滿二十歳ニ至リ癡篤疾ナルモノ 一時金百圓



二十年四月十二日  
第百二十四號  
以下第二條  
改定

- 四 療治料
  - 一日金壹圓以下
- 五 祭祀料
  - 奉職一年未滿ニシテ死亡シタルモノ 一時金拾圓
  - 一年似上一ヶ年毎ニ五圓ヲ増給ス
  - 職務ノ爲メ死亡シタルモノ 一時金百圓
- 第二條 退職給助及各種ノ祭祀料ハ併給スルモノトス
- 第三條 死亡給助中死者ニ依リ生計ヲ爲セシモノ、給助ハ最近ノ親屬一人ヲ限ルモノトス
- 第四條 年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六ヶ月(六ヶ月ニ滿タサルモノ)分ヲ支給ス
- 第五條 年金ハ退職又ハ死亡若クハ傷病ノ翌月ヨリ支納ス但本例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給スヘシ
- 第六條 年金ヲ受ケタルモノ死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分金額ヲ支給スルモノトス
- 廳第七十五號 明治二十年三月十六日 第二部 警察本部
- 巡查看守給助金下渡順序別紙之通知定ム
- 巡查看守給助金下渡順序
  - 第一條 年金ヲ受クヘキモノ(退職及傷病者)ハ附錄第一第二號書式ノ願書ニ其區戸長ノ奥印ヲ受ケ他府縣ニ在ルモノハ本管廳ヲ經テ當廳ヘ出願スヘシ

- 第二條 一時給助金ヲ受クルモノハ(祖父母兄弟姉妹并ニ孤兒滿二十歲已上ノ癡篤疾者)ハ第三第四號書式ノ願書ニ親屬貳名(親屬ナキモ)ノ連書ヲ以テ其區戸長ノ奥印ヲ受ケ他府縣ニ在ルモノハ本管廳ヲ經テ當廳ヘ出願スヘシ但退職一時給助ハ退職後一週間内ニ奉職年數及金額ヲ請求書ニ記載シ前所屬ノ課署長ヲ經テ請求スヘキモノトス
- 第三條 療治料ヲ受クヘキモノハ月末毎ニ其日數及ヒ金額ヲ請求書ニ記載シ主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ所屬課署長ヲ經テ請求スヘシ
- 第四條 年金ヲ給スルモノニハ第五號書式ノ證票ヲ付與シ定期ニ於テ管内ニ在ルモノハ當廳管外ニ在ルモノハ其管廳ヲ經テ下付スルモノトス
- 第五條 職務ノ爲メ負傷シタルモノ及負傷ニ原因シ若クハ傳染病ニ罹リ死亡シタルモノ并ニ孤兒二十歲以上ニシテ癡篤疾者タルノ處明ハ秋田ニ在テハ秋田病院其他ニ在テハ最寄公立病院又ハ開業醫ノ診斷書ヲ以テスヘシ但巡查ノ死傷ハ警察署所在地ニ在テハ警察署ノ診斷ヲ受クヘキモノトス
- 第六條 年金ヲ受クルモノノ給助例第八條第一項第九條各項ニ該當シ又ハ轉籍死亡再嫁等戸籍上ニ異動アルトキハ其區戸長ノ奥印ヲ受ケ他府縣ニ在ルモノハ本管廳ヲ經由シ速ニ當廳ヘ届出ツヘシ但公權剝奪又ハ死亡再嫁等給助ヲ受クルノ權利消滅シタルトキハ其屆書ト共ニ年金證票ヲ返納スヘシ
- 廳第九十一號 明治廿年三月廿九日 警察本部
- 明治十九年 四月廿 廳第七號達第二部歳入取扱手續左ノ通改定シ明治廿年度ヨリ施行ス右訓令ス

一 違警罪科賭博過料及沒收金等現金ヲ以テ各署ニ收納スルモノハ毎日之ヲ取獲メ別紙  
歳入科目表ニ依リ各目ニ區分シタル納付書ヲ添ヘ翌日迄ニ取扱主任者ヨリ其地金庫ヘ  
納付スヘシ

一 納付書ハ別紙書式ニ據リ正副貳葉ヲ製シ正書ニハ納金領收ノ證印ヲ得之ヲ每一ヶ月分  
取獲メ翌月五日該地差立上納書及仕譯書(本八納附付)ト共ニ本廳ヘ送納スヘシ  
(添テ要セ)

但違警罪科料及違警罪ニ係ル沒收金ニ限リ納付書年度ノ上ニ「司計省主管」ノ印ヲ押  
捺スヘシ

一 警察官吏拾得金ハ期限經過ノ后チ前二項ノ手續ニ准シ納付スヘシ

一 大館警察署ニ於テ徵收スル科料及沒收金等ハ第二項ノ手續ニ准シ從來ノ通現金ヲ以テ  
本廳ヘ送納スヘシ

一 納付金徵収無之月ハ其旨前期日迄ニ第二部會計課ヘ報告スヘシ

○廳第百五號

明治廿年四月九日

警察本部

巡查管内旅費ハ罪囚護送ノ場合ニ限リ單ニ日當チ給シ車馬賃チ支給セズ

○廳第百二十九號

明治二十年五月廿三日

警察本部

客年内務省令第十一號ヲ以テ警察官吏旅費支給概則改定相成候處警部警部補ノ各警察署  
及ヒ分署在勤ノ者其警察署所管内持區外へ出張及巡回シ又ハ分署詰巡查ニシテ經費受取  
及精算ノ爲メ出頭セシムルトキハ自今旅費ヲ給セス同則第二條及ヒ第四條ニ據リ日當チ  
支給ス

○廳第百六十八號

明治二十年七月二日

警察本部

巡查教習所在學中ハ其月俸ノ半額ヲ支給ス

但入所退所ノ際ハ日割ヲ以テ支給ス

○廳第百三十三號

明治二十年十二月十六日

警察本部

各警察署警部諸費ノ義ハ本年廳第百九十號訓令警察署會計事務取扱手續改定後ト雖モ該  
則第一條豫定ノ額ハ從來之通月額仕譯書ヲ製シ承認ヲ受クヘキ義ト心得ヘシ

○廳第五十八號

明治廿一年四月十日

警察本部

巡查給與品取扱規則左之通り相定ム

但明治十四年十一月達保存期限表ハ廢止ス  
右訓令ス

巡查給與品取扱規則

第一條 巡查ノ給與品ヲ分チテ二種トス甲種ハ保存期限ヲ定メ其期ヲ終ルトキハ之本  
人ニ給與シ乙種ハ其職ヲ退クトキハ之ヲ返納セシム

第二條 甲種ハ毎年度ニ於テ同時ニ之ヲ下付シ乙種ハ就任ノ日之ヲ下付シ毀損又ハ其用  
チナサ、ルニ至ラサレハ更ニ之ヲ交付セズ

第三條 給與品ノ種類及ヒ下付ノ員數保存期限ハ別表ノ定ムル所ニ據ル

第四條 甲種ノ給與品中保存期限ニ滿ラスシテ其職ヲ退クモノアルトキハ之ヲ返納セシ  
ム

第五條 新任者ニ下付スル甲種ノ給與品ハ年度内任用ノ先後ニ依リ保存期限ノ適合スヘ  
キ前條ノ返納品(靴下ヲ)ヲ以テス

第六條 給與品ヲ遺失又ハ毀損シタル者ハ相當ノ賠償ヲ爲サシム但職務執行ノ爲メ又ハ正當ノ事由アルモノハ此限ニアラス

第七條 退職者ヨリ返納スル給與品ハ其目錄ヲ添ヘ前在勤ノ警察署又ハ分署ニ出スヘシ

第八條 給與品ノ檢査ハ所管警察署長又ハ分署長ヲシテ之ヲ執行セシム

○廳第六十五號 明治廿一年四月十四日 第二部 警察本部

各警察署分署ニ於テ執行スル換刑禁錮人及拘留人賄料之義自今左ノ通改正ス

右訓令ス

一壹飯膏錢五厘以內

但シ場合ニ據リ貳錢以內ヲ以給スルコトヲ得

警察本部

明治廿一年六月廿二日

○廳第九十四號 凡ソ書狀ハ郵便條例第六十七條各項ニ掲グル場合ヲ除クノ外ハ郵便局ヲ經由セサレバ送達スルヲ得サル義ニ候處巡査在勤所等ニ於テハ郵便ニ依ル能ハサルノ事由アルニ非スシテ態夫ヲ以テ遞送候向有之義ニモ相開得殊ニ其向ヨリ照會ノ次第モ有之果シテ事實ニシテ法ニ觸レ制裁ヲ受クルニ於テハ官衙ノ休面ニモ相開スル義ニ有之尤モ偏隅ノ地郵便ノ設置遍ネカラス深達ノ不便ヲ感スル向ハ事ノ緩急ニ從ヒ態夫ヲ以テ直チニ送達スルノ必要モ有之管ニ候得共能ク條例ノ旨趣ヲ了解シ法ニ觸ル、カ如キ不都合無之様豫メ警察本分署ヘ示達シ置クヘシ

右訓令ス

○廳第五十三號

明治廿二年三月廿八日

警察本部

本年四月一日後本縣警察官吏及傭員文具料支給規則左ノ通相定ム

但明治十九年四月廳第二十六號達筆墨料ノ項ハ廢止ス

文具給與規則

第一項 此規則ニ於テ文具ト稱スルハ明治廿二年二月閣令第四號文具支給規則第一條ニ掲グル物品ヲ總稱ス

第二項 警察官吏(警部長以下)及傭員(小使取締職工)ニハ現品ヲ給セス文具料トシテ左ノ等級ニ應シ代料ヲ以テ給與ス

但巡査ハ内勤ノ者ニ限リ支給ス

一 等一ヶ月金貳拾五錢

二 等全 金貳拾錢

三 等全 金拾五錢

簿記專務者

各課署書記專務者

(警務課二名各課署一名ツ、ニ限ル)

普通ノ官吏及傭員

但製圖製表者ノ類モ此内ニ包含ス

第三項 他官廳ヨリ兼任ノ者ハ本官ノ例ニ依リ文具料ヲ給與ス本廳内各部課署ヲ兼勤スル者ハ別ニ給セス遠隔ノ部課署ヲ兼勤スル者ハ特ニ半額ヲ給スルコトアルヘシ

第四項 前項ノ代料ハ毎月七日支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延ス

第五項 各課署長ハ該課署ノ官吏及傭員ノ本則第二項各等級ニ該當スル官姓名ヲ區分取

調三月三十一日マテニ主計課長ヘ通知シ其已後第六項第七項ノ異動ヲ生シ又ハ第八項ノ場合ニ於テハ其時々通知スヘシ

- 第六項 新任轉任非職廢官退官及死亡共當月分ノ文具料ハ全額ヲ給ス
  - 第七項 非職廢官退官ノ者事務引續キ殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ文具料ヲ給與ス
  - 第八項 願濟休暇旅行若シハ病氣又ハ私事ノ故障ニヨリ上廳セサル月ハ文具料ヲ給與セズ
  - 第九項 小使取締職工ノ類ハ代料ヲ給セス其詰所ニ應シ相當ノ定數ヲ設ケ現品ヲ配置ス
  - 第十項 外勤巡查及應接所訊問所人民扣所等ヘ定數ヲ設ケ現品ヲ配置ス
  - 第十一項 文具ノ内雲形定木卷尺ノ類ハ各自ニ給與セス使用ノ部課若クハ掛ノ備トシテ定數ヲ設ケ現品ヲ給與ス
  - 第十二項 第九項第十項第十一項ノ定數及取締ノ方法ハ警部長之ヲ定ム
- 秋田縣訓令乙第三號 明治廿年五月十五日 第二節 警察本部  
警部警部補ノ日當月額ヲ廢シ警察官吏其他內國旅費概則第二條ニ據クル日當額ヲ左之通リ節減支給ス
- 但シ來ル六月一日ヨリ施行ス
- 第一項十二里以上ノ巡廻ハ日數ニ應シ日當四拾錢ヲ支給ス
  - 第二項ヨリ第六項ニ至ル場合ハ其日數又ハ泊數ニ依リ日當三拾錢ヲ支給ス

現秋田縣法規下卷終

明治二十二年十月廿五日出版

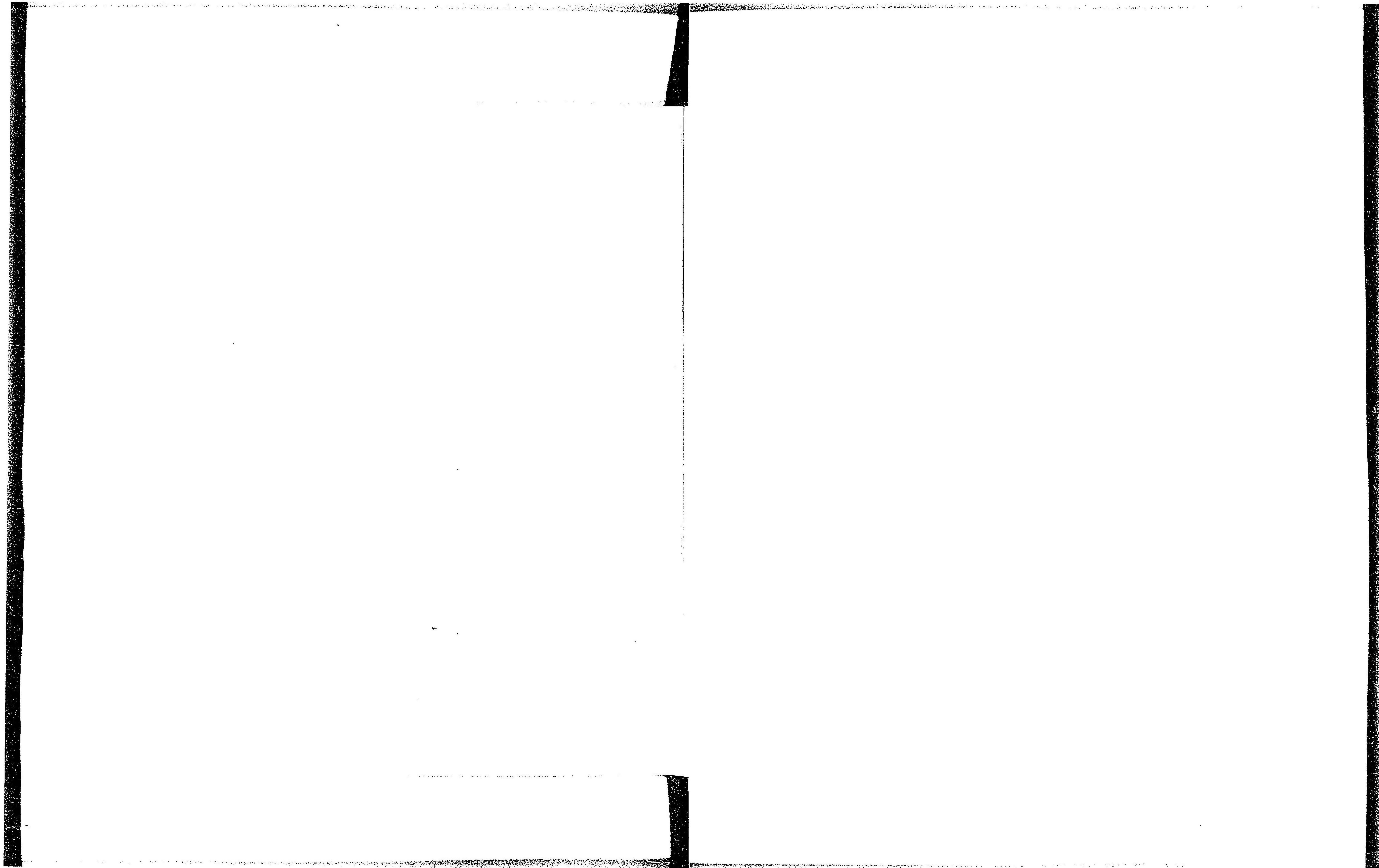
# 秋 田 縣

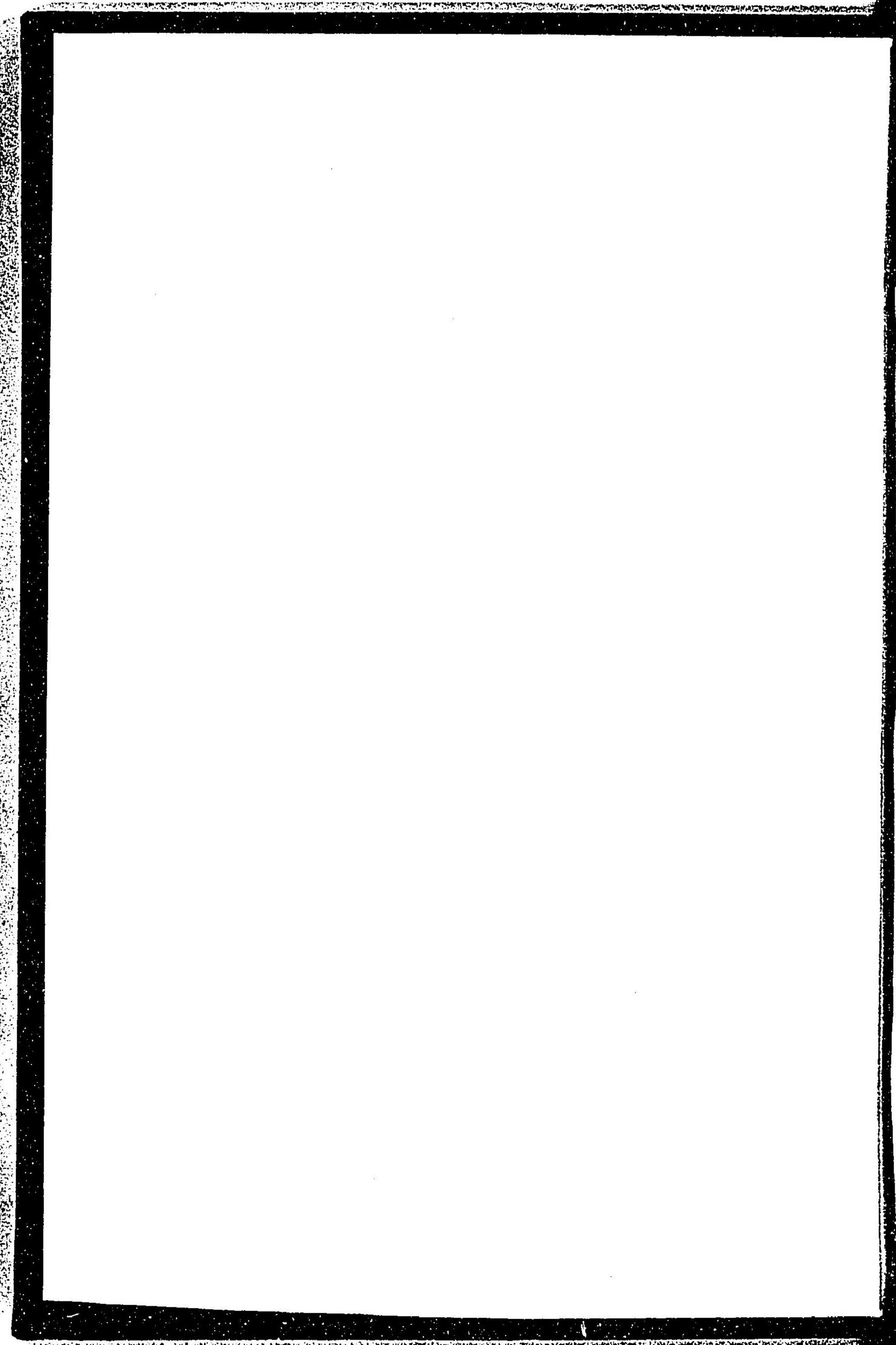
秋田市茶町菊ノ丁十八番地

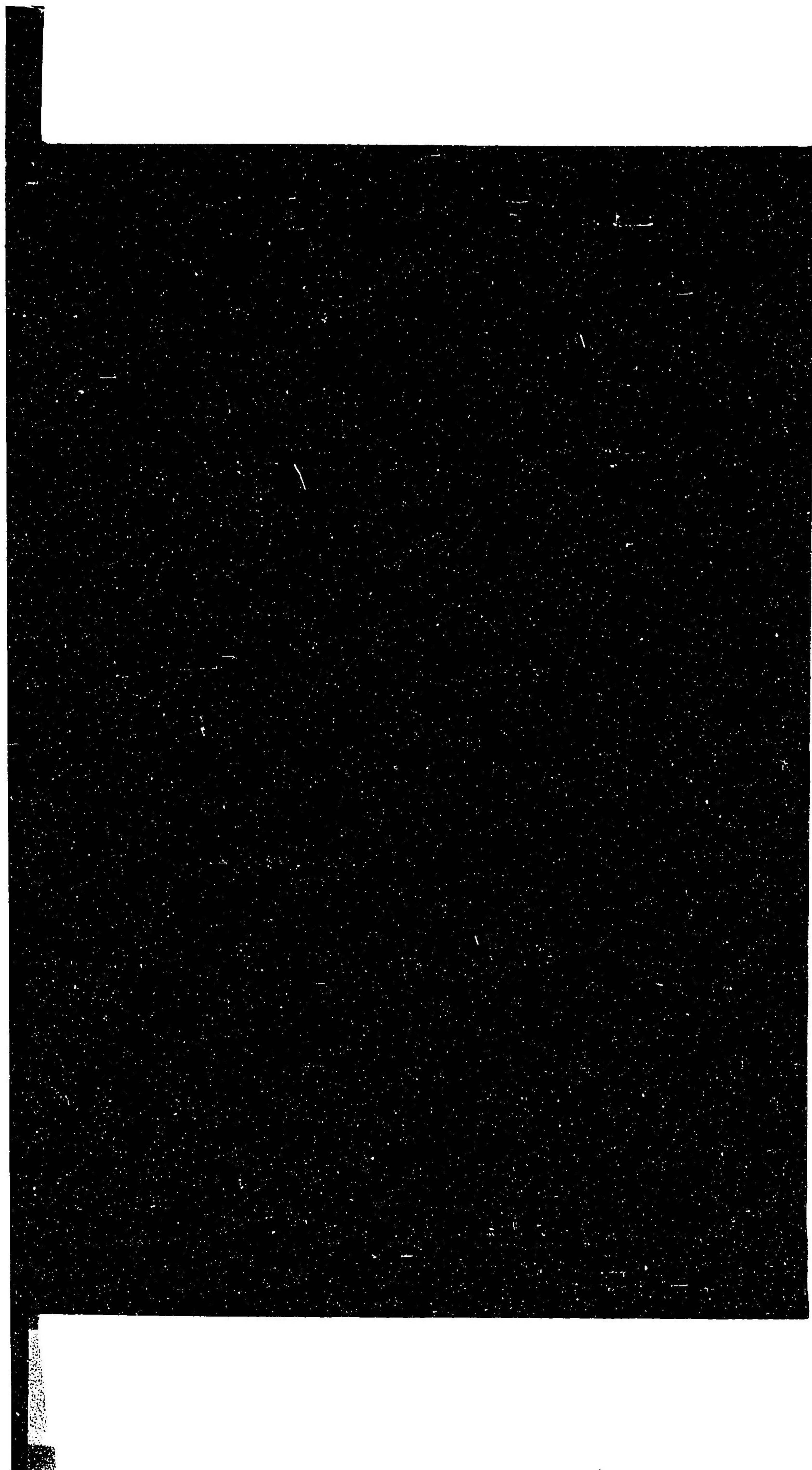
印刷所

秋田社活版所

3年J27









禁電子式複写

